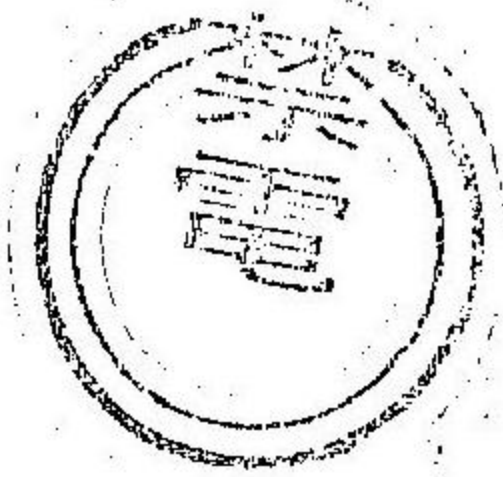


CZ
765
020

監
獄
則



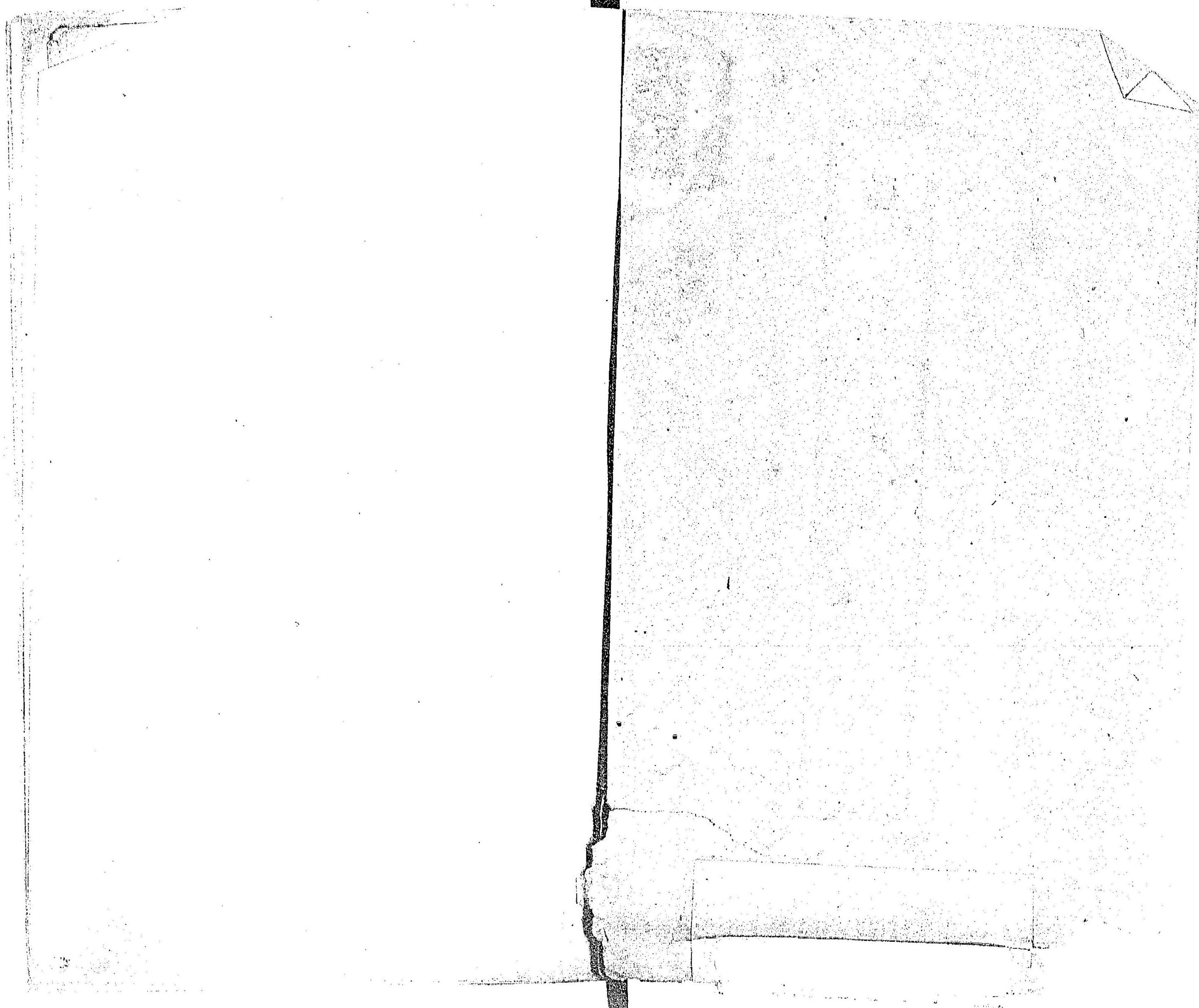
館書

函04

架三

號

類



C2
765
020

特50
590

第八拾壹號

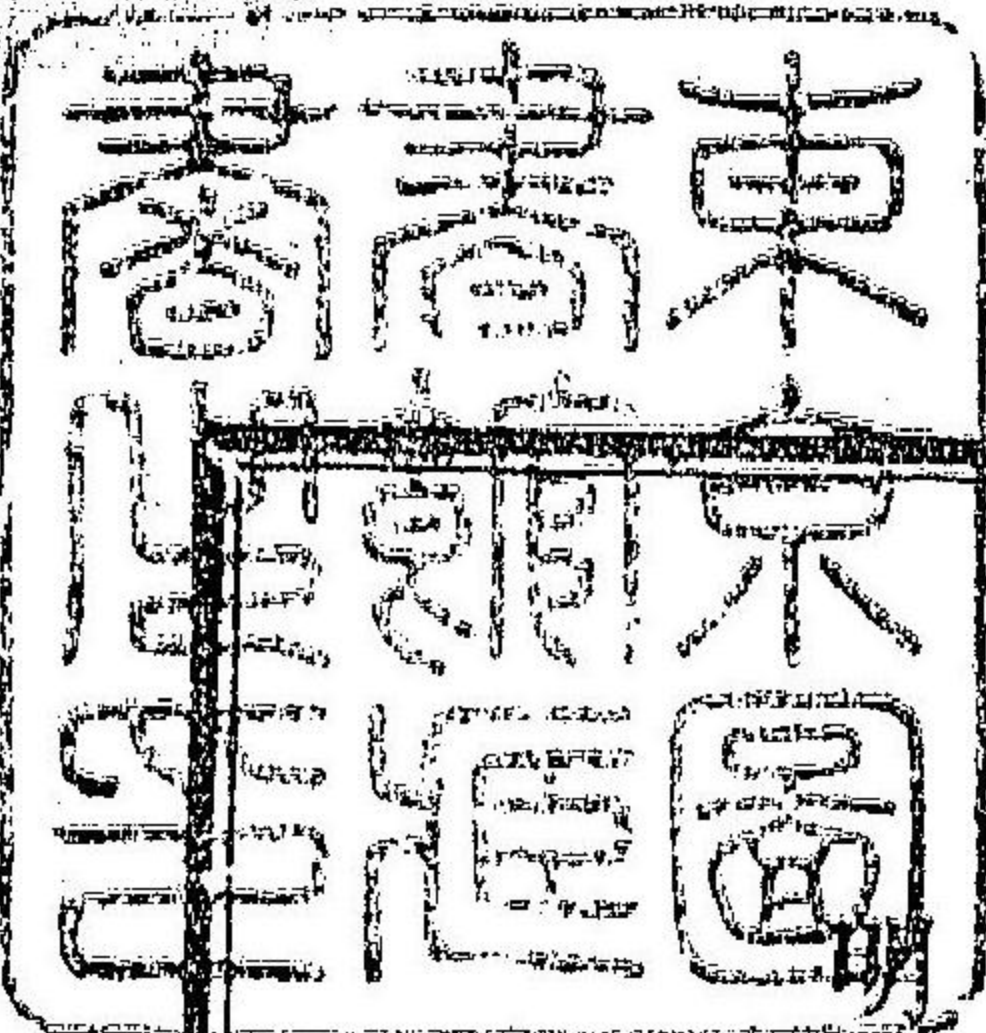
官省院使廳府縣

明治五年達監獄則及本年^三第十三號達在監人給與規則同^七第六十
四號達在監人雇工錢規則ヲ合セテ別冊ノ通監獄則相定候條此旨相
達候事

但明治十五年一月一日以後施行ノ刑法治罪法ニ關涉スル條件ハ
同日ヨリ施行スヘシ

太政大臣三條實美

明治十四年九月十九日



監獄則目錄

第一編

第一章 汎則

第二章 監署ノ規程

第三章 監獄ノ構造

第二編

第一章 役法 附時限

第二章 工錢

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第三編

第一章 給與
第二章 疾病 附死亡
第三章 書信
第四章 接見
第五章 差入品
第四編
第一章 教誨
第二章 賞譽
第三章 懲罰

監獄則

第一編

第一章 汎則

- 第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス
- 一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得
 - 二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス
 - 三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス
 - 四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス
 - 五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル

ノ所トス

六 集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第三條 集治監ハ内務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ警視總監又ハ府知事東京府ヲ除ク縣令之ヲ管理ス

第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

第五條 内務卿ハ毎年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルコトヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦テ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第二章 監署ノ規程

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ査閱シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脱越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ處刑宣告書等ノ文書ヲ査閱シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致シ來タル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス

未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

已決者ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條 入監ノ婦女乳兒三歳未滿ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ様本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房内ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舎ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條 總テ監房ニ入ルノ物品ハ典獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收ス

若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ス

第十五條 在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ

記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノ、ミヲ許スヘシ
第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ
記載シタル者ヲ別異ス

- 一 十六歳未滿ノ者ト滿十六歳以上ノ者
- 二 滿十六歳以上二十歳未滿ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者
- 三 初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼
ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但著衣ノ外襟ニ白布ヲ縫著シ其番號
ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ
穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬
親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ
矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八歳以上滿二十歳
以下ヲ限トス

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

- 一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘡癩者
- 二 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者

第二十條 前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戶長ノ證票ヲ具スルニ
非レハ入場ヲ許サス但在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ル
ヲ得ス

入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往セシ
ト請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一 十六歳未滿ノ者ト滿十六歳以上ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入シ者ト同上ノ
年齢ニシテ初テ入場スル者

第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其
他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ
在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ
在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別
ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ錄サ
シメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條 賞表ヲ與ヘタルトキハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載
シ褫奪シタルトキハ之ヲ删除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒
ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條 特赦アリタルトキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

第二十六條 特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後
ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其證票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以
テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ錄シテ共ニ

其地ノ警察官 治罪法第六十條第二項ニ記載シタル官吏ニ送致スヘシ

第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ

於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得

第二十九條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス
傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役
者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務ヲ繼續セシ
ムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アル
ルヲ許サス

第三十條 刑期滿限ノ後賴ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ
別居ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過
ヘカラス

第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守
ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ
其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過サレハ埋葬若クハ下付
スルコトヲ得ス

第三十三條 刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨ
リ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領
置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタ
ル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス
親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販

賣シテ代價ヲ遞付スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス
若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス

第三十四條 在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ
處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之
ヲ處分スルコトヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ

第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏
其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ
水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ違ナキトキ
ハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第三十六條 留置場、監倉、懲治場、拘留場、懲役場、ハ每府縣ニ置キ
集治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス

留置場、監倉、懲治場、拘留場、懲役場、一區畫内ニ在ルモノハ墻壁
ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ
甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交
通スルノ便ヲ得サラシムヘシ各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙
遞用スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘ
シ
闇室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサル

ヲ要ス

密室闇室ハ一室一人ヲ限トス

第三十九條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縦横ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障碍スルノ虞ナカラシムヘシ

第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第二編

第一章 役法 附時限

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ每囚一

日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若クハ身體ノ虚弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應シ作業ノ科程ヲ寬恕ス

若シ已ムヲ得ス外役ニ服セシムルトキハ鐵鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ笠ヲ用テ晴雨ヲ問ハス其面ヲ掩ハシム但外役ノ囚徒ハ一組十人以上十人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサシムルヲ要ス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢ヲナスヘシ歸監セシムル時モ亦同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日

一月二日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚ヲシテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ

生業ヲ計リ攝生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムル

ヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル

未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過

キサル時間休憩時間ヲ除農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

○時限

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起

床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以内監房外ニ

於テ運動ヲ許ス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃

除シ畢テ喫飯セシム其起床ヨリ約子一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第五十條 科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラヌ罷役セシム

午飯ニ就カシムルノ際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休憩ヲ許サス

第二章 工錢

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢

ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決者并ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢ハ之ニ準ス

第五十二條 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルヲ能ハサル者及ヒ刑期滿限ノ後頼ルヘキ所ナクシテ監署傍ノ別房ニ留置シタル者ハ其工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ

其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ一日若干錢ト定ムヘシ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得

第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ親屬ニ下付ス親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ下付ス若シ下付ヲ受ヘキモノナキトキハ之ヲ沒收ス

第五十七條 在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決者及ヒ懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒

收ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル者アルトキハ其宣告書ノ謄書ヲ具シテ内務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ集治監ニ押送スヘシ

北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送スヘキモノトス

第五十九條 北海道ニ在ル集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遞船中ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第六十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ家ナキトキハ屋舎ヲ貸與スヘシ

屋舎ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スル便ノヲ計畫スルヲ要ス
第六十二條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取ルシ之ヲ許否スヘシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戸長ニ通告スヘシ
其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否スヘシ

第三編

第一章 給與

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルヲ能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書スヘシ

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

- 一 單衣
- 一 袴
- 一 綿入衣
- 一 襦袢
- 就役服
- 一 單短衣
- 一 袴短衣
- 一 綿入短衣
- 一 襦袢
- 一 股引

雜具

- 一 蒲團
- 一 蚊帳
- 一 莞蓆
- 一 枕
- 一 帶 尺長三
- 一 褌 尺長三
- 一 手巾
- 一 蓑
- 一 笠

以上ノ貨與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ弊濯補綴シテ其

用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四 七合 強キ力業ニ服スル者

一同 五合 輕キ力業ニ服スル者

一同 四合 工役ニ服セサル者及ヒ

一同 三合 滿十歳以上ノ未決者

一 菜 十歳未滿ノ幼者

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第六十九條 工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者及ヒ其幾倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過ルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購

ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條 在監人日用ノ雜費澣濯補綴又ハ炊用ノ薪炭ハ一人一日金壹錢貳厘以下トス

第七十一條 監房常置ノ器具

一 貯水器并ニ飲器 木製

一 唾壺 同

一 便器 木製大小二種但監房ニ廁固ノ接

一小箒 草ノ種類ヲ以テ製作

一 洗手盆 木製

第七十二條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次ト

月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髮ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚アル者ハ

常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之

ヲ濯ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ

洗スヘカラス

第二章 疾病 附死亡

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病

室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ル

コトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シ

テ許否スヘシ

第七十七條 傳染病侵蔓ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ慎重ニスヘシ

若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉

シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スヘシ

○死亡

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并蒞テ之ヲ驗屍スヘ

シ

未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルト

キハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ
遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約テ面三寸長三尺五寸トス

第三章 書信

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認タルトキハ此限ニ在ラス

第八十一條 未決者ニ係ル信書ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢

閱ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

第八十二條 徵治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル信書ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八十三條 在監人ノ發スル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル信書ハ典獄之ヲ檢閱シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限り之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之ヲ付與セス

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ

横讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之

ヲ緘シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便税ハ自辨セシム

親屬故舊若クハ辨護人ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシムヘシ

第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキヲナキトキハ之ヲ許シ看守長看守並蒞テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス
面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治

監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會ノ時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又ハ飲食物炊煮ヲ要セサルモノニシテ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ煙草其他攝生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開クモノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖畫等ノ科目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス
學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閲ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラ

シムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

揭示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スベシ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ 未決監ニハ此款ヲ除ク
- 一 每朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ
- 一 每朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁厠園等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外へ唾キ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス

- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起步スルヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戯ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス 未決監ニハ此款ヲ除ク
- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ

シ

- 一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響雷繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ
- 一 病者タルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ
- 一 水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ
- 右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノ

ナリ

年月日

某監獄署

第二章 賞譽

第九十六條 已決囚獄則ヲ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ
確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左
袖ノ肩臂間ニ方二寸_{曲尺}ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ

第九十八條 賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲ス
ヲ得

第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ
通信スルヲ許ス

第百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル
水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與
シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求ス
ヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ録シテ檢察官
及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第百二條 懲治人第百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下
ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章 懲罰

第百三條 已決囚獄則テ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰
ス

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ
服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與
ヘス

四 閤室 閤室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品
ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第四百四條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閤室ハ七晝夜ヲ限
トス

減食閤室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之
ヲ科スルコトヲ得

第四百五條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則テ犯ストキハ其輕重
ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以内ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第四百六條 獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四百七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者教令ニ順ハス或ハ同監ノ
者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重ヲ量リ第三百三
條第四百五條ニ準擬シ減食スルコトヲ得

第四百八條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タルトキハ賞表一個又ハ數個ヲ
褫奪ス

第四百九條 無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行

脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ三月以上五年以下兩脚又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈇ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス但監房ニ在ルモ晝間ハ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハヌモノトス其外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第一百條 減食或ハ闇室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ

第一百一條 屏禁減食闇室又ハ獨愼ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ

第一百二條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ル、トキハ之ヲ免スルコトヲ得

第一百三條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以下之ヲ拘置スルコトヲ得

興嶽縣懲治人名籍 主檢 書記 氏名印

身 材	事入 場 狀ノ	年入 月場 日ノ	親 屬	親及懲 ノ日治 營辱人 業屬人	年氏族出本 齡名籍地管 生
身何尺何寸何分肥瘠強弱		昭和何年何月何日午後第何時入場	父母兄弟及配偶者等ノ有無	懲治人ノ務業 或親者ノ此等屬親ノ營業	河國郡 河產 關那村 治地住何某 河 某 昭和何年何月何日生

音容聲貌	數育及門	入賞罰中	書信贈	懲治場ニ留置ノ宣告ヲナセシ裁判所	經シ者ナル時ハ其事由	事變	放還
面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癩瘡黒痣癩風天癩癩瘡類及ヒ音聲ノ高低ヲ細細ニ具載ス	入場ノ時文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲナス得或ハ善ク讀書ヲス入場後進學ノ景況何宗或ハ宗門不詳	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	何年何月日何國郡村住親屬若クハ朋友ニ書信	明治何年月日何日某裁判所ニ於テ若干年月日留置ノ宣告	犯由ノ大略及ヒ某裁判所	明治何年月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス	明治何年月日某家ニ放還

典獄(檢印)未決者名籍 主檢書記 氏名印

音容聲貌	身材	及年入監罪日	乳提兒	營業及親屬	年氏族出生
面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癩瘡黒痣癩風天癩癩瘡類及ヒ音聲ノ高低ヲ細細ニ具載ス	長何尺何寸何分肥瘠強弱	明治何年月日午前第何時入監何罪ヲ犯ス	男或ハ女收監ノ時何歳何ヶ月	營業ヲ詳記ス可ク父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無	<p>某管下國郡村寄地住及ハ何某子第妻女</p> <p>何國郡村産</p> <p>某年某月某日</p> <p>當何年何月何年何月</p>

終 結	事 變	保 釋	當 該 官 氏 名	書 信 贈 答 許 ス 日	入 監 中 行 狀	教 育 及 宗 門
又ハ他監押送	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監	明治何年月日保釋若シハ責付	裁判長ノ正名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ隨監セシ官吏ノ氏名	明治何年月日何國郡村住親屬若シハ朋友ニ書信	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ書ノ體裁ヲナス 何宗或ハ宗門不詳

典獄(檢印)已決囚名籍 主檢 書記 氏名印

本 山 族 氏 年	營 業 親 屬	乳 兒 携	刑 名 及 日 裁 宣	收 監 月 日	厄 由 及 數
某管下國郡村番地住又ハ何某子弟妻女 何國郡村産 族籍 何某 某年 月 日生 當何年何月何年何月	露業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無 男若シハ女 收監ノ時何歳何ヶ月 父母ニ先テテ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス		何刑若干年月日 明治何年月日何裁判所ニ於テ宣告	明治何年月日午後第何時入監	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス 若シ再ニ犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ某裁判所ニ於テ何 刑ニ處セラル

身 材	容 貌	音 聲	教 育 門 及	入 監 罰 中	書 信 贈 答 年 月 日	假 出 獄 閉	事 變	終 結
長何尺何寸何分肥瘠強弱	而體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他皮膚癩子癩瘡黑痣癩風天癩癩癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ハモ細識ニ具載ス	文字ヲ識ルヤ否或ハ識サラスヲ辨或ハ識ク讀サラス何宗或ハ宗門不詳	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	明治何年月日何國郡町村住親屬者クハ朋友ニ書信來發	明治何年月日何月何日假出獄或ハ免出獄	明治何年月日病死或ハ變化或ハ脱監或ハ何罪ヲ犯シ後々未決監ニ入ル	明治何年月日滿期放免又ハ特赦	

假出獄之證票

某管下國郡村町番地住又ハ何某子弟妻女
族 籍

何 某
某年某月某日
明治何年何月何年何月

身 材

名籍ノ様本ニ倣
ヒ詳記スヘシ

容 貌

上ニ同シ

罪 質 犯 數

刑 名 刑 期

及ヒ附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受
ケ何年月日ヨリ執行何年月日滿期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ約
テ何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅ヲ定ムヘキ旨
申渡シタル事

料紙半紙

一此者ハ本刑期限間特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滞留スルトキハ滞留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住地ニ到着ノ上此證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル事

右之通心得サセ假出獄ノ諸票ヲ與フル者也

明治何年 月 日

某 監 獄 署

長 官 何 某 印

○假出獄ヲ受タル者所有金アルトキハ此諸票ノ裏面若シハ欄内ニ左ノニ款ヲ附記ス

一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其居住スヘキ地ノ警察官ニ送り遣シタル事

一警察官ヘ送り遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日ニテモ受取得ヘシト雖モ同官ニ於テ正當ノ入用ナリト認定ノ上ニ非レハ一次ニ之ヲ渡サハルヘキ事

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ

一書信ノ文句規則ニ背キタルコトアルトキハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルコトアルヘシ

書信紙 ○ 明治 年 月 日

Vertical text on the left side of the page, likely a date or recipient information, written in a traditional style.

囚徒服役時限表

月名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
起	午前七時〇二分	六時三十八分	六時〇六分	五時三十二分	五時〇一分	四時四十九分	四時五十分	五時十六分	五時四十八分	六時二十二分	六時五十二分	七時〇八分
就	午前八時〇二分	七時三十八分	七時〇六分	六時三十二分	六時〇一分	五時四十五分	五時五十一分	六時十六分	六時四十八分	七時二十二分	七時五十二分	八時〇八分
小憩	午前第十時ヨリ 前十分時間	第十時ヨリ 十五分時間	同	第九時四十分 時ヨリ二十分時間	第九時ヨリ 三十分時間	同	同	同	第九時五十分 時ヨリ二十分時間	第十時ヨリ 十五分時間	同	第十時ヨリ 十分時間
午飯	正十二時ヨリ 午五十分時間	十二時ヨリ 一時時間	同	同	十二時ヨリ 一時三十分時間	十二時ヨリ 二時時間	同	同	十二時ヨリ 一時時間	同	同	十二時ヨリ 五十分時間
罷役	午後三時三十分	三時五十分	四時	四時三十分	五時	五時二十分	五時十分	四時五十分	四時二十分	三時四十分	三時二十分	同
晩飯	一時二十八分間	一時三十二分間	一時五十四分間	一時五十八分間	一時五十八分間	一時五十四分間	一時五十九分間	一時五十四分間	一時五十一分間	一時四十九分間	一時四十八分間	一時三十二分間
還房	午後四時五十八分	五時二十二分	五時五十四分	六時二十八分	六時五十八分	七時十四分	七時〇九分	六時四十四分	六時十一分	五時三十七分	五時〇八分	四時五十二分
服	六時	六時	七時	八時	八時	九時	八時	八時	八時	七時	六時	六時

約子日出ノ時刻
ヨ以テ起床ノ時
刻トナス然ルニ
年々季節ニ早晚
アリ日々分秒ニ
差別アリ加ルニ
東國西國ノ別
リ此ニ由テ何レ
ノ地方ニ於テモ
分秒ノ差異ナキ
ヲ保ツ能ハス故
ニ月毎ニ大約之
ヲ平均シテ姑ク
此起床時刻ヲ登
載ス各地ノ司獄
官此表ノ區分ヲ
準トシ宜ク裁
酌シテ役囚ヲ遇
スヘシ

右ノ時間ニシテ
工器ヲ併理シ及
ヒ餐浴等ヲ爲サ
シム

約子日没ノ時刻
ヨ以テ入監ノ時
刻トナス

囚徒服役時限表

時限名	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
起	前七時〇二分	六時三十八分	六時三十八分	六時〇六分	五時三十二分	五時〇一分	四時四十九分	四時五十分	五時十六分	五時四十八分	六時二十二分	六時五十二分	七時〇八分
就	前八時〇二分	七時三十八分	七時三十八分	七時〇六分	六時三十二分	六時〇一分	五時四十五分	五時五十一分	六時十六分	六時四十八分	七時二十二分	七時五十二分	八時〇八分
小憩	午第十時ヨリ 前十分時間	第十時ヨリ 十五分時間	第十時ヨリ 十五分時間	同	同	同	同	同	同	同	同	同	第十時ヨリ 十分時間
午飯	正十二時ヨリ 午五十分時間	十二時ヨリ 一時時間	十二時ヨリ 一時時間	同	同	十二時ヨリ 一時三十分時間	十二時ヨリ 二時時間	十二時ヨリ 一時時間	同	同	同	同	十二時ヨリ 五十分時間
罷役	午三時三十分	三時五十分	三時五十分	四時	四時三十分	五時	五時二十分	五時二十分	四時五十分	四時五十分	三時四十分	三時二十分	同
晚飯	一時二十八分間	一時三十二分間	一時三十二分間	一時五十四分間	一時五十八分間	一時五十四分間	一時五十四分間	一時五十四分間	一時五十四分間	一時五十四分間	一時四十九分間	一時四十八分間	一時三十二分間
還房	午四時五十八分	五時二十二分	五時二十二分	五時五十四分	六時二十八分	六時五十八分	七時十四分	七時十四分	六時四十四分	六時四十四分	五時三十七分	五時〇八分	四時五十二分
服役時間合計	六時二十八分間	六時五十七分間	六時五十七分間	七時三十五分間	八時三十八分間	八時五十九分間	九時〇五分間	八時四十九分間	八時〇四分間	八時四十四分間	七時〇三分間	六時十三分間	六時十二分間

約予日出ノ時刻
ヲ以テ起床ノ時
刻トナス然ルニ
年々季節ニ早晚
アリ日々分秒ニ
差別アリ加ルニ
東國西國ノ別
リ此ニ由テ何レ
ノ地方ニ於テモ
分秒ノ差異ナキ
ヲ保ツ能ハス故
ニ月毎ニ大約之
ヲ平均シテ姑ク
其起床時刻ヲ登
載ス各地ノ司獄
官此表ノ區分ヲ
準トナシ宜ク裁
酌シテ役囚ヲ遇
スヘシ

右ノ時間ニシテ
工器ヲ併理シ及
ヒ餐浴等ヲ爲サ
シム
約予日没ノ時刻
ヲ以テ入監ノ時
刻トナス

明治十四年九月廿九日出版御届
同 十月十五日出版

定價金拾二錢

警視廳御用書物師

出版人

賣

東京日本橋西河岸町十二番地
須原鐵二

同通壹丁目十五番地
北島茂兵衛

同淺草區茅町二丁目
北澤伊八

同日本橋區吳服町十二番地
坂上七

同通三丁目
丸屋善七

同京橋區銀座四丁目
博聞本社

弘

書

横濱辨天通貳丁目
師岡伊兵衛

西京寺町通り四條上ル
田中治兵衛

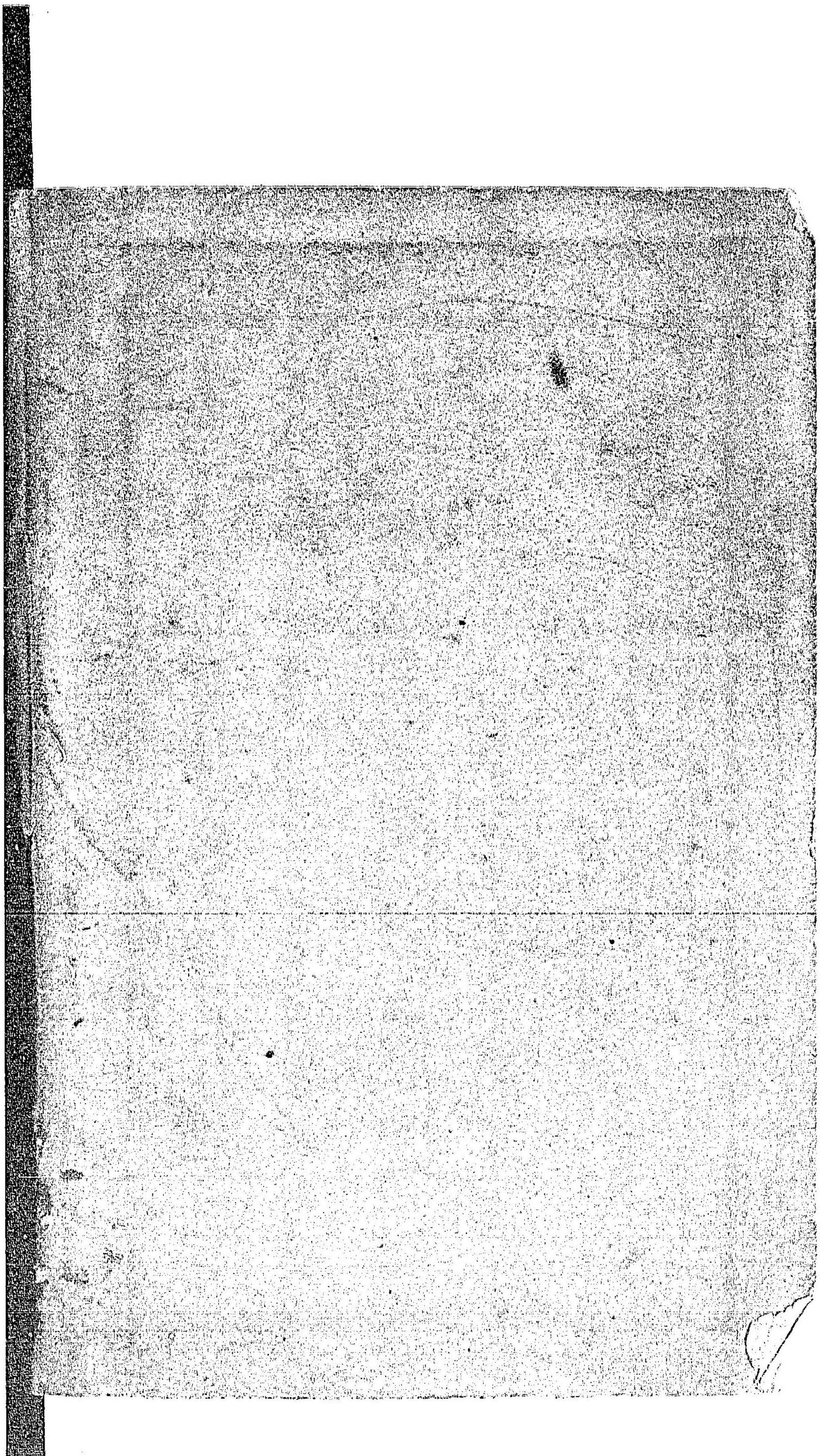
神戸相生橋東詰
兵庫縣御用書林 熊ヶ谷幸助

大坂高麗橋二丁目二十三番地
同支店

同心齋橋筋南久寶寺町
前川善兵衛

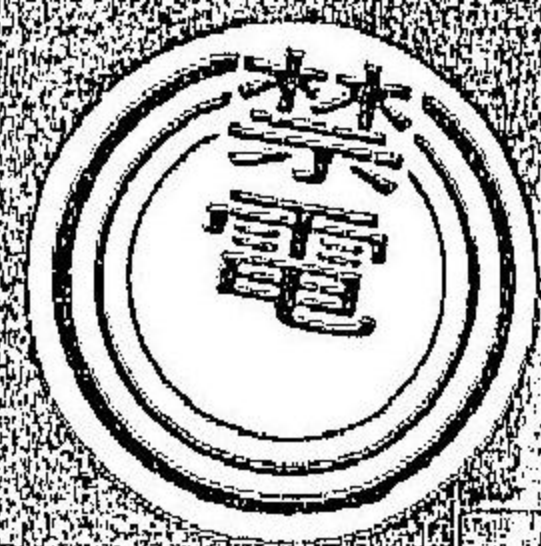
同本町四丁目
岡島真七

印刷
東京京橋區元數寄屋町四丁目
稲田活版所



CZ
765
020

監
獄
則



037266-000-1

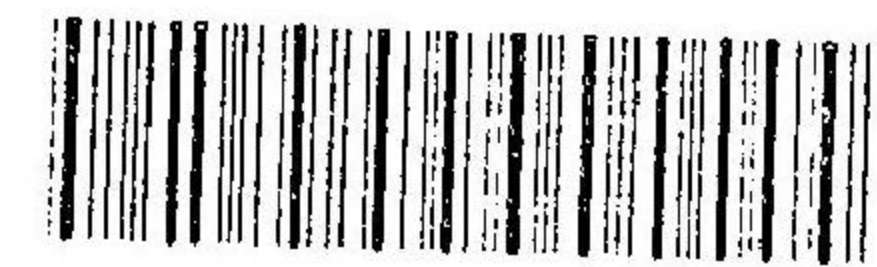
CZ-765-020

監獄則

須原 鉄二 / 刊

M14

BBT-0075



館書	
函01	
架三	
號	類